

この商品は家庭で調理するために使うものです。使用の際は取扱説明書をよく読んでから使用してください。
不適切な取扱いは事故につながります。使用する方はこの取扱説明書を必ず保管してください。

使用する前に

- ご使用前には必ず、各部に異常のないこと確認をしてください。各部にガタつきや変形などが生じている場合には使用しないでください。
- 最初に使用する時は、製品に貼ってあるシールなどをはがしてから食器用中性洗剤を付けて、柔らかいスポンジで十分に洗い、乾かしてから使用してください。
- 加熱機器の注意書をよく読んで上、正しくお使いください。
- 品質に万全を期しますが、万一不具合があった場合には、使用しないで株式会社タマハシお問い合わせ先までご連絡ください。

使用上の注意

警告

- 調理中、**油煙が出たら加熱をやめてください**。油が発火し火災の危険があります。又、調理中(加熱中)にその場所を離れる時にも必ず加熱をやめてください。

注意

- 本来の用途以外には使用しないでください。
- 取っ手にガタつきのある状態では使用しないでください。ネジを締め直してから使用してください。その際、締めてもガタつきが直らない場合は使用を中止してください。
- 取っ手のガタつきや製品の損傷に対し、改造や応急処置などの手当てを使用することは危険ですのでやめてください。
- ご使用の際は、少量の食用油を用いてご使用ください**。こびりつきにくく長持ちします。
- たぶらなど揚げ物料理には使用しないでください**。油に引火する恐れがあります。下ごしらえなどで油を使用する際には、油の温度を200℃以上にししないでください。
- 調理中の油のつぎ足しは危険ですからやめてください。
- フチまで内容物を満たした状態で使用しないでください。また、吹きこぼれないよう十分注意してください。
- 本体を予熱する以外の空焚きはしないでください**。空焚きは火災や本体の変形、取っ手の破損や火傷の原因になります。また、ふっ素樹脂塗膜の損傷の原因となります。万一誤って空焚きをしてしまった場合は、水などで急に冷やさず、自然に冷ましてください。
- 予熱をする際の火力は必ず弱火で行ってください**。強火での予熱は本体の変形や破損、又、ふっ素樹脂塗膜の劣化の原因になります。
- 普段ご使用の際、火力は必ず中火以下で使用してください。
- 本体は加熱機器の中央部に乗せ、安定させた状態で使用してください。
- ストーブの上では絶対に使用しないでください。落下や異常加熱による火傷及び製品の破損等の原因になります。
- 本体が熱い状態で急に水につけたりして冷やさないでください。本体の変形や損傷、ふっ素樹脂塗膜の劣化や損傷の原因になります。
- ガスコンロでご使用の場合、炎が鍋底からはみ出さないように使用してください。炎により取っ手が焦げて危険です。又、隣接するコンロの炎が取っ手部分にあたらないよう向きを調整してください。万一取っ手にガタつきなどが生じた場合には使用を中止してください。
- 調理後など熱いうちに、紙などの燃えやすいものの上には置かないでください。
- オーブン、電子レンジ、食器洗浄機などでは使用しないでください。故障や塗膜の破損の原因になります。
- 調理後など、内容物を他の容器に移す際は本体外面への伝いもれや、飛び散りによる火傷に十分注意してください。
- 金属へうをご使用の際は、角の丸いなめらかなものを使用してください。木、竹、プラスチック製のものをご使用いただくとも層長もちします
- 加熱中や加熱直後は取っ手が熱くなっていますので、火傷に十分注意してください。つかみ際には鍋つかみや布巾を用いて、すべらないようしっかり握ってください。又、乳幼児は遠ざけ、絶対手に触れさせないでください。
- 本体に落下などの強い衝撃を与えないでください。破損やケガの原因になります。

お手入れ・保管について

- ご使用後は、食器用中性洗剤をつけた柔らかいスポンジで**十分洗いき水を拭き取り乾燥させてください**。お手入れが不十分だと白い粉状のものが付着しますが、水道水中の微量成分が固まったもので、性能および衛生上問題はありません。
- 取っ手を含む全体を水に浸して丸洗いしないでください**。取っ手や取っ手取り付け部の中に水がたまり、再加熱のときに蒸気が噴出し、取っ手が熱くなって火傷の原因になります。万一取っ手取り付け部の穴が汚れてふさがっている場合は、先ののとがったもので貫通させてください。
- 洗浄後、必ず取っ手取り付け部の中にたまった水を抜き乾燥させてください。水がたまったまま放置しますとサビや腐食の原因になります。

- 表面を傷つけますので洗う際は、スチールタワシ、研磨剤、酸性及びアルカリ性洗剤の使用は避けてください。
- 塩分や酸を含んだ汚れを付着したまま、また濡れたまま放置したり湿気の多い場所での保管は、サビの発生や塗膜の劣化及び損傷の原因になります。
- 調理後は本体内で料理を保存しないでください。塗膜の劣化やサビの原因になります。
- 焦げつきなどを落とす場合は金属製の固いものや傷つけやすいものを使用しないでください。熱湯に浸して焦げつきを柔らかくしてから取り除いてください。
- 手の届きにくい場所には保管しないでください。取り出し時に落下する危険があります。
- 食品衛生法に適合した塗料を使用しておりますので人体には影響はございません。